

## 1. 看護栄養学部

### (1) 教育目的

「建学の精神」に基づき、本学部には看護学科と栄養学科を設置し、「健康」と「生活」という共通概念を基盤にして、人々の健康の回復と保持・増進、疾病予防、あるいは平和な死への援助を実現するため、それぞれ独自のアプローチを持ちながら、連携・協働して地域社会に貢献できる専門職業人の育成を目的とします。

そのため、看護・栄養の専門職性と豊かな個性と創造性の伸長を目指します。

## 2. 看護学科

### 1) 2022年度以降入学生

#### (1) 教育目的

キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を、自律して実践できる人間性豊かな専門職者を育成する。

#### (2) ディプロマ・ポリシー

##### ◎ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」（看護学）を授与します。

1. キリスト教的人間観に基づき人間を全人的に理解する能力  
愛をとおして、人間を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな統一体として理解できる。
2. 環境と健康との関わりを理解する能力  
人間を取り巻く環境と健康の課題について、専門的立場から考えることができる。
3. 倫理に基づいて対象者を擁護する能力  
対象者の人権擁護を基本として、倫理的感受性を磨き、倫理的課題を発見して対応できる。
4. 根拠に基づいて実践する能力  
看護学の専門的知識を活用し、健康問題・課題の解決に向けて、科学的根拠と論理的思考に基づいた看護ケアを安全・安楽に提供できる。
5. ヘルスケアシステムにおいて多職種とのコミュニケーションを通して連携・協働する能力  
ヘルスケアシステムおよび他の専門職の役割を理解し、円滑な人間関係を築いて目標に向け協働できる。
6. グローバルな視点を持ち、社会や他者に貢献する能力  
幅広い教養とグローバルな視点をもとに、多様な環境下で生きる人々に対し、看護専門職の役割を理解したうえで自発的に行動できる。
7. 専門職者として研鑽し続ける能力  
社会の変化への対応や看護の質の改善に向け、自律して学び続けることができる。

### (3) カリキュラム・ポリシー

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法、教育評価の3つの観点から定める。

#### 1. 教育課程の編成・教育内容

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具現化するために、「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」「教養教育科目群」「専門教育科目群」「統合発展科目群」の4つの科目群からカリキュラムを編成する。

##### 1) 「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」

キリスト教的人間観に基づき、他者に関心をもち人間を全人的に理解する科目を置く。加えて、他者に仕えていくための愛を育み、社会に貢献する姿勢を培う科目を置く。

専門職、プロフェッショナルリズム（プロ意識、専門職業人が持つべき態度・価値観）について学び、自己について内省すること、主体的に自己のキャリアデザインを考えることを通して、看護専門職者としてのアイデンティティを培う科目を置く。

##### 2) 「教養教育科目群」

高大接続を踏まえ、入学時までに育んできた「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）をさらに伸長し、広く社会に貢献できる資質・能力を培う教育内容とする。本科目群は、「共通基礎教育科目」「共通教養教育科目」より構成される。

(1) 「共通基礎教育科目」では、4年間の学修の基礎となる知識や技能、論理的思考力や問題解決能力を培うための科目を置く。加えて、国際性を重視する観点から、外国語によるコミュニケーション能力を培う科目を置く。

(2) 「共通教養教育科目」では、人類の文化や社会に関する幅広い知識を身に付け、社会規範意識や倫理観を養い、豊かな感性と美意識、主体的に考え行動する力を培うための科目を置く。

##### 3) 「専門教育科目群」

看護の実践に必要な専門的知識、技術を修得し、論理的思考、問題解決能力、多職種と連携・協働する能力を培う教育内容とする。本科目群は、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」より構成される。

(1) 「専門基礎科目」では、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識、人を取り巻く自然環境・社会的環境と健康の課題、わが国のヘルスケアシステムを理解するための科目を置く。

(2) 「看護基礎科目」では、看護学の基本概念、看護の役割・機能、基礎的知識を学び、対象者の健康状態を判断する方法と看護過程、コミュニケーションなどの基礎的な技術・生活援助技術・診療介助技術などの看護技術を修得するための科目を置く。

(3) 「看護臨床科目」では、看護学の専門的知識を活用し、対象者の特徴を踏まえ、健康問題・課題の解決に向けて看護を展開するための論理的思考、問題解決能力、安全・安楽に看護ケアを提供する技術、多職種と連携・協働する能力を修得するための科目（臨地実習科目を含む）を置く。

##### 4) 「統合発展科目群」

4年間の学習を統合し、看護専門職者としての将来の発展につながる教育内容とする。グローバルな視点を持ち、多様な環境下で生きる人々への理解と看護活動のあり方について熟考する科目、社会の変化への対応や看護の質の改善、および看護専門職の発展に向け、研究的な視点で看護を探究するための基礎的能力を培う科目、高度実践看護師や保健師など大学院での学びに繋がる科

目を置く。

上記科目群の詳細および卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）で示した7つの能力との関連について、体系図（カリキュラム・マップ）を示す。

## 2. 教育方法

- 1) 大学における学修への円滑な移行に必要な初年次教育（I-58 ページ）を実施する。
- 2) ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力の修得を意識して学習を進められるよう、「カリキュラム構成図」や「履修モデル」を提示し、履修指導を行う。
- 3) ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力を修得できるよう、かつ学生が主体的に学び、学習の積み重ねが可能となるような教育方法を用いる。アクティブ・ラーニング型授業を展開し、授業科目の内容を踏まえて、事前・事後課題の提示、グループワーク等の効果的な方法を用いる。
- 4) 知識を活用してアセスメントし、必要な看護ケアを立案・実践する能力を養うために、シミュレーション教育や少人数教育を行う。
- 5) 学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。
- 6) 自己の学修成果や学生生活での体験を俯瞰し、自身の成長を確認していけるよう、ポートフォリオを作成し、活用する。

## 3. 教育評価

- 1) 授業科目毎に、講義・演習・実習等の科目の特徴を踏まえた評価方法により、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の観点を含め、多面的に成績評価を行う。実習科目は、設定された実習目標の達成度を、評価基準に基づいて評価する。
- 2) 1～3年次の終了時および卒業時に、カリキュラム・ルーブリック（ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力を、能力毎にレベル1～4の段階で表したもの。I-4 ページ）に基づいて、各能力の修得状況を評価する。
- 3) 科目毎の授業評価アンケート、および各学年終了時に到達度評価アンケートを実施し、学生の授業やカリキュラムに対する評価と意見を把握することで、カリキュラムの見直しと改善を図る。

## 2) 2020・2021年度入学生

### (1) 教育目的

キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を、自律して実践できる人間性豊かな専門職者を育成する。

### (2) ディプロマ・ポリシー

#### ◎ 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

看護学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」（看護学）を授与します。

1. キリスト教的人間観に基づき人間を全人的に理解する能力  
愛をとおして、人間を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな統一体として理解できる。
2. 環境と健康との関わりを理解する能力  
人間を取り巻く環境と健康の課題について、専門的立場から考えることができる。
3. 倫理に基づいて対象者を擁護する能力  
対象者の人権擁護を基本として、倫理的感受性を磨き、倫理的課題を発見して対応できる。
4. 根拠に基づいて実践する能力  
看護学の専門的知識を活用し、健康問題・課題の解決に向けて、科学的根拠と論理的思考に基づいた看護ケアを安全・安楽に提供できる。
5. ヘルスケアシステムにおいて多職種とのコミュニケーションを通して連携・協働する能力  
ヘルスケアシステムおよび他の専門職の役割を理解し、円滑な人間関係を築いて目標に向け協働できる。
6. グローバルな視点を持ち、社会や他者に貢献する能力  
幅広い教養とグローバルな視点をもとに、多様な環境下で生きる人々に対し、看護専門職の役割を理解したうえで自発的に行動できる。
7. 専門職者として研鑽し続ける能力  
社会の変化への対応や看護の質の改善に向け、自律して学び続けることができる。

### (3) カリキュラム・ポリシー

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法、教育評価の3つの観点から定める。

#### 1. 教育課程の編成・教育内容

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具現化するために、「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」「教養教育科目群」「専門教育科目群」「統合発展科目群」の4つの科目群からカリキュラムを編成する。

##### 1) 「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」

キリスト教的人間観に基づき、他者に関心をもち人間を全人的に理解する科目を置く。加えて、他者に仕えていくための愛を育み、社会に貢献する姿勢を培う科目を置く。

専門職、プロフェッショナリズム（プロ意識、専門職業人が持つべき態度・価値観）について学び、自己について内省すること、主体的に自己のキャリアデザインを考えることを通して、看

護専門職者としてのアイデンティティを培う科目を置く。

## 2) 「教養教育科目群」

高大接続を踏まえ、入学時までには育んできた「学力の3要素」(1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度)をさらに伸長し、広く社会に貢献できる資質・能力を培う教育内容とする。本科目群は、「共通基礎教育科目」「共通教養教育科目」より構成される。

(1) 「共通基礎教育科目」では、4年間の学修の基礎となる知識や技能、論理的思考力や問題解決能力を培うための科目を置く。加えて、国際性を重視する観点から、外国語によるコミュニケーション能力を培う科目を置く。

(2) 「共通教養教育科目」では、人類の文化や社会に関する幅広い知識を身に付け、社会規範意識や倫理観を養い、豊かな感性と美意識、主体的に考え行動する力を培うための科目を置く。

## 3) 「専門教育科目群」

看護の実践に必要なとなる専門的知識、技術を修得し、論理的思考、問題解決能力、多職種と連携・協働する能力を培う教育内容とする。本科目群は、「専門基礎科目」「看護基礎科目」「看護臨床科目」より構成される。

(1) 「専門基礎科目」では、人間の健康と疾病の成り立ちや治療に関する専門的知識、人を取り巻く自然環境・社会的環境と健康の課題、わが国のヘルスケアシステムを理解するための科目を置く。

(2) 「看護基礎科目」では、看護学の基本概念、看護の役割・機能、基礎的知識を学び、対象者の健康状態を判断する方法と看護過程、コミュニケーションなどの基礎的な技術・生活援助技術・診療介助技術などの看護技術を修得するための科目を置く。

(3) 「看護臨床科目」では、看護学の専門的知識を活用し、対象者の特徴を踏まえ、健康問題・課題の解決に向けて看護を展開するための論理的思考、問題解決能力、安全・安楽に看護ケアを提供する技術、多職種と連携・協働する能力を修得するための科目(臨地実習科目を含む)を置く。

## 4) 「統合発展科目群」

4年間の学習を統合し、看護専門職者としての将来の発展につながる教育内容とする。グローバルな視点を持ち、多様な環境下で生きる人々への理解と看護活動のあり方について熟考する科目、社会の変化への対応や看護の質の改善、および看護専門職の発展に向け、研究的な視点で看護を探究するための基礎的能力を培う科目、高度実践看護師や保健師など大学院での学びに繋がる科目を置く。

上記科目群の詳細および卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)で示した7つの能力との関連について、体系図(カリキュラム・マップ)を示す。

## 2. 教育方法

- 1) 大学における学修への円滑な移行に必要な初年次教育（I-58 ページ）を実施する。
- 2) ディプロマ・ポリシーで示した 7 つの能力の修得を意識して学習を進められるよう、「カリキュラム構成図」や「履修モデル」を提示し、履修指導を行う。
- 3) ディプロマ・ポリシーで示した 7 つの能力を修得できるよう、かつ学生が主体的に学び、学習の積み重ねが可能となるような教育方法を用いる。アクティブ・ラーニング型授業を展開し、授業科目の内容を踏まえて、事前・事後課題の提示、グループワーク等の効果的な方法を用いる。
- 4) 知識を活用してアセスメントし、必要な看護ケアを立案・実践する能力を養うために、シミュレーション教育や少人数教育を行う。
- 5) 学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。
- 6) 自己の学修成果や学生生活での体験を俯瞰し、自身の成長を確認していけるよう、ポートフォリオを作成し、活用する。

## 3. 教育評価

- 1) 授業科目毎に、講義・演習・実習等の科目の特徴を踏まえた評価方法により、①知識・技能、②思考力・判断力・表現力、③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度の観点を含め、多面的に成績評価を行う。実習科目は、設定された実習目標の達成度を、評価基準に基づいて評価する。
- 2) 1～3 年次の終了時および卒業時に、カリキュラム・ルーブリック（ディプロマ・ポリシーで示した 7 つの能力を、能力毎にレベル 1～4 の段階で表したもの。I - 16 ページ）に基づいて、各能力の修得状況を評価する。
- 3) 科目毎の授業評価アンケート、および各学年終了時に到達度評価アンケートを実施し、学生の授業やカリキュラムに対する評価と意見を把握することで、カリキュラムの見直しと改善を図る。

### 3) 2019年度以前入学生

#### (1) ディプロマ・ポリシー

看護学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復あるいは平和な死への生活の援助を自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」(看護学)を授与します。

- 1) キリスト教的人間観に基づき、人間を全人的に理解し、多様な健康レベルにある人々の健康問題・課題の解決に取り組む能力
- 2) 保健医療福祉システムを理解し、多様な組織・社会において、他の専門職者と協働できる能力
- 3) 社会における政治的・経済的・文化的システムを理解し、柔軟に適応しながら環境を調整する能力
- 4) 対象の人権を擁護し、倫理的配慮に基づき、看護専門職者として、責任・役割を果たす能力
- 5) 国際的な広い視野と多様な環境下で生きる人々への看護実践について理解を深め、社会貢献できる能力

#### (2) 教育課程の構成

※ 教養教育科目はI-54ページを参照すること。

2012年度以降入学生の教育課程は、キリスト教的人間観と高い実践能力を持つ看護師の養成に特化しています。

専門教育科目は、「専門基礎科目」と「専門科目」に区分されています。

##### 1) 専門基礎科目

「学部共通専門基礎科目」に加えて、看護実践の基礎として必要な科目が編成されています。

###### ① 身体のしくみ

主に身体的な健康生活を扱います。身体の構造としくみ、栄養と代謝、健康と免疫、健康と病理、病気と治療、看護に必要な薬理を学びます。

###### ② 健康支援と社会保障制度

社会生活と健康の関連を、人々が所属する場の集団特性との関係から理解した上で、保健医療福祉システムに関わる法、医療経済、諸制度などを学習し我が国における保健医療福祉活動の現状と課題を考えます。

###### ③ ヒューマンケアの基礎

『生涯発達論』で人間の誕生から老年までの「成長発達・加齢」の原理と発達課題を学習し、人生の中で遭遇するさまざまな危機と健康との関連を学びます。また、文化と生活、生活環境と健康の関わりを科学的に学習し、保健医療福祉の現場で遭遇する現象を人間関係論的観点、倫理的観点、文化人類学的観点から学ぶために、『人間関係論』『医療と倫理』や『医療人類学』(選択科目)を配置しています。

##### 2) 専門科目

専門科目は「看護学の基礎」「看護援助方法論」「看護の実践」および「看護学の統合と発展」「人間形成とキャリアデザイン」に区分されています。

###### ① 看護学の基礎

『看護学原理』では、看護の本質と看護学を構成する、人間・環境・健康・看護について講義と演習により学習します。『看護ケア提供システム論』は、看護ケアが提供されている場を

実際に体験し看護の役割・機能を学習します。

『基礎看護技術論Ⅰ～Ⅳ』では、看護学を展開する上で共通する安全、コミュニケーション、健康教育などの基礎的な技術、生活援助技術、診療介助技術などを講義と演習により学習します。『ヘルスアセスメント』は、健康状態を判断する方法について講義と演習により学びます。

## ② 看護援助方法論

看護援助方法論では、看護学の基礎を土台として多様な場で生活している人間（個人・家族・集団）のライフサイクル各ステージの特徴の理解と健康レベル（健康の保持・増進、健康の回復、急性・慢性状況やターミナルなど）に対応した健康生活への実践能力を養う科目が編成されています。

科目は看護領域別に、『成人看護学Ⅰ～Ⅳ』『老年看護学Ⅰ～Ⅲ』『小児看護学Ⅰ、Ⅱ』『母性看護学Ⅰ、Ⅱ』『精神看護学Ⅰ～Ⅲ』『在宅看護論Ⅰ、Ⅱ』に分かれています。

また、『家族看護学』『リハビリテーション看護学』（選択科目）『感染看護学』（選択科目）を配置し、さらに、卒業後のキャリア発達（保健師・助産師・専門看護師等）につながる科目として、『地域看護学』『ヘルスプロモーション活動論』（選択科目）『ホスピス・緩和ケア論』を設けています。

## ③ 看護の実践

基礎看護学レベルの実習を、『基礎看護学臨地実習Ⅰ』（1年次）、『基礎看護学臨地実習Ⅱ』（2年次）として置き、病院や施設で学習します。また、看護領域別の臨地実習が多様な場で体験あるいは看護展開できるように計画されています。さらに、『統合看護臨地実習』（4年次）では、複数患者の受け持ちや夜間における看護を体験し、看護チームの役割についても学習します。

## ④ 看護学の統合と発展

これまでに学習した内容を統合し、かつ看護専門職の発展に貢献する能力を養う科目として以下の科目を配置しています。

本学の教育理念の浸透を図るため『生と死の看護ゼミ』では、生と死に関わる問題を多面的に検討し、自己の死生観、看護観を深めます。『看護研究の基礎』では、研究成果を活用する方法論を学習します。また、『事例研究』での学習プロセスを通して、科学的・論理的に思考する能力や探求心を養います。実践面においては『統合看護技術演習』で看護技術を適切に実施するための能力を養います。

このほか、倫理的な考え方や問題検討の方法を学ぶ『看護倫理』、看護組織論を基にリーダーシップやマネジメントを学ぶ『看護管理』、保健医療チームの一員である看護職者・管理栄養士の専門性を追求し、チームで連携・協働する意義を学ぶ『栄養・看護演習』を必修科目として配置しています。

また、各自の進路・興味関心に沿ったより発展的な学びができるよう、『看護英文講読』『看護教育学』『国際医療援助論』『災害医療援助論』『合同特別演習』を選択科目として配置しています。

## ⑤ 人間形成とキャリアデザイン

専門職を目指す者として、自らを振り返る機会や専門職者としてのあり方を学ぶことを通じ、専門職者としての生き方や将来を見据えたキャリアデザインについて考える科目として、『人間形成とキャリアデザインⅠ～Ⅲ』を配置しています。

以上の内容が学習者の責任において自覚され、批判的、主体的に学ぶよう期待されています。



### 3. 栄養学科

#### 1) 2020年度以降入学生

##### (1) 教育目的

人々の健康の保持・増進、健康の回復に向けて、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる専門的能力を養う。

##### (2) ディプロマ・ポリシー

栄養学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復に向けて、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる人間性豊かな専門職者を育成し、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」（栄養学）を授与します。

1. キリスト教的人間観に基づき人間を全人的に理解する能力  
愛をとおして、人間を身体的・心理的・社会的・スピリチュアルな統一体として理解できる。
2. 環境と健康との関わりを理解する能力  
人間を取り巻く環境と健康の課題について、専門的立場から考えることができる。
3. 倫理に基づいて対象者を擁護する能力  
対象者の人権擁護を基本として、倫理的感受性を磨き、倫理的課題を発見して対応できる。
4. 根拠に基づいて実践する能力  
栄養に関連する専門的知識を活用し、健康に関する問題や課題の解決に向けて科学的根拠と論理的思考に基づいた栄養管理を安全に行うことができる。
5. ヘルスケアシステムにおいて多職種とのコミュニケーションを通して連携・協働する能力  
ヘルスケアシステムおよび他の専門職の役割を理解し、円滑な人間関係を築いて目標に向け協働できる。
6. グローバルな視点を持ち、社会や他者に貢献する能力  
幅広い教養とグローバルな視点をもとに、多様な環境下で生きる人々に対し、管理栄養士の役割を理解したうえで自発的に行動できる。
7. 専門職者として研鑽し続ける能力  
社会の変化への対応や栄養管理の質の改善に向け、自律して学び続けることができる。

##### (3) カリキュラム・ポリシー

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を、教育課程の編成・教育内容、教育方法、教育評価の3つの観点から定める。

#### 1. 教育課程の編成・教育内容

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を具現化するために、「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」「教養教育科目群」「専門教育科目群」「統合発展科目群」の4つの科目群からカリキュラムを編成する。

##### 1) 「キリスト教を基盤とした人間教育科目群」

キリスト教的人間観に基づき、他者に関心をもち人間を全人的に理解する科目を置く。加えて、他者に仕えていくための愛を育み、社会に貢献する姿勢を培う科目を置く。

専門職、プロフェッショナルリズム（プロ意識、専門職業人が持つべき態度・価値観）について学び、自己について内省すること、主体的に自己のキャリアデザインを考えることを通し

て、管理栄養士としてのアイデンティティを培う科目を置く。

## 2) 「教養教育科目群」

高大接続を踏まえ、入学時まで育ててきた「学力の3要素」（1. 知識・技能、2. 思考力・判断力・表現力、3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度）をさらに伸ばし、広く社会に貢献できる資質・能力を培う教育内容とする。本科目群は、「共通基礎教育科目」「共通教養教育科目」より構成される。

(1) 「共通基礎教育科目」では、4年間の学修の基礎となる知識や技能、論理的思考力や問題解決能力を培うための科目を置く。加えて国際性を重視する観点から、外国語によるコミュニケーション能力を培う科目を置く。

(2) 「共通教養教育科目」では、人類の文化や社会に関する幅広い知識を身に付け、社会規範意識や倫理観を養い、豊かな感性と美意識、主体的に考え行動する力を培うための科目を置く。

## 3) 「専門教育科目群」

管理栄養士の実践に必要な専門的知識、技術を修得し、理論的思考、問題解決能力、多職種と連携・協働する能力を培う教育内容とする。本科目群は、「専門基礎科目」、「専門科目」より構成される。

(1) 「専門基礎科目」では、社会・環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成り立ち、食べ物と健康の3分野から構成し、人を取り巻く自然環境・社会的環境と健康の課題、食品と栄養に関わる専門知識を理解するための科目を置く。

(2) 「専門科目」では、栄養の基礎、栄養の教育、栄養の実践、学外実習の4分野から構成し、管理栄養士として根拠に基づいて実践する能力や、多職種との連携・協働する能力、社会や他者に貢献する能力、専門職として研鑽する能力を身に着けるための科目を置く。

## 4) 「統合発展科目群」

4年間の学習を統合し、管理栄養士として将来の発展につながる教育内容とする。

グローバルな視点を持ち、多様な環境下で生きる人々に対し、管理栄養士の役割を理解し、たうえで自発的に行動できる能力、社会の変化への対応や栄養管理の質の改善に向け、自律して学び続けることができる能力を身に着けるための科目を置く。

## 5) 「教職課程科目」

栄養教諭一種免許状の資格を得ることができる科目を、1年次から4年次まで段階的に配置する。（Ⅰ - 36 ページ、Ⅱ - 23・24 ページ）

## 2. 教育方法

- 1) 大学における学修への円滑な移行に必要な初年次教育を実施する（Ⅰ - 58 ページ）。
- 2) ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力の修得を意識して学習を進められるよう、「カリキュラム構成図」や「履修モデル」を提示し、履修指導を行う。
- 3) 授業科目の特徴をふまえつつ、アクティブ・ラーニングを取り入れた教育を行う。
- 4) 学生が主体的に自己学習できるように、教育環境を整える。
- 5) 自己の学修成果や学生生活での体験を俯瞰し、自身の成長を確認していけるよう、ポートフォリオを作成し、活用する。
- 6) 国家資格に必要な専門的知識の能力確認のために外部テストの導入、自己学習の推進や結果のモニタリングを行う。

### 3. 教育評価

- 1) 授業科目毎に、講義・演習・実習等の科目の特徴を踏まえた評価方法により、学力の3要素を含め多面的に成績評価を行う。実習科目は、設定された実習目標の達成度を、評価基準に基づいて評価する。
- 2) 1～3年次の終了時および卒業時に、カリキュラム・ルーブリック（ディプロマ・ポリシーで示した7つの能力を、能力毎にレベル1～4の段階で表したもの。I - 35ページ）に基づいて、各能力の修得状況を評価する。
- 3) 科目毎の授業評価アンケート、および各学年終了時に到達度評価アンケートを実施し、学生の授業やカリキュラムに対する評価と意見を把握することで、カリキュラムの見直しと改善を図る。

## 2) 2019年度以前入学生

### (1) ディプロマ・ポリシー

栄養学科は、キリスト教的人間観に基づいて、人々の健康生活の保持・増進、健康の回復に向けて、栄養学を基盤とし、食を通して生活へのサポートを自律して実践できる人間性豊かな専門職者として、以下の能力を身に付け、大学学則に基づく授業科目および単位数の修得など規定にある要件を満たした学生に対して「学士」（栄養学）を授与します。

- 1) キリスト教的人間観により人間を全人的に理解する能力
- 2) 人間を取り巻く「食」を科学的視点から幅広く理解する能力
- 3) 人間栄養学の専門的知識と技術を修得し、人々に貢献する能力
- 4) 人間と環境の相互作用を理解し、対応できる能力
- 5) 社会システムを理解し、社会の変化に柔軟に対応できる能力
- 6) 課題を探究し、判断し、意思決定ができる能力
- 7) 保健医療福祉システムの中で円滑な人間関係を築き、他の専門職者と協力して、目標に向け推進する能力
- 8) 人間愛に基づき専門職者として国際社会に貢献する能力

### (2) 教育課程の構成

教養教育科目は、I-54ページを参照すること。

専門教育科目は「専門基礎科目」と「専門科目」に区分されています。

#### 1) 専門基礎科目

「学部共通専門基礎科目」に加え、栄養学科に必要な基礎科目が配置されています。

##### ① 社会・環境（人間や生活）と健康

人間や生活についての理解を深めるとともに、社会や環境が人間の健康をどう規定し左右するか、あるいは健康の保持・増進のために社会や環境はどうあるべきか等、社会や環境と健康の関わりについて学習します。

##### ② 人体の構造と機能・疾病の成り立ち

生物科学を基礎に、人間（人体）への理解を深めます。人体の構造や機能を系統的に理解するとともに、主要疾患の成因、病態、診断、治療の基本的な考え方について学習します。

##### ③ 食べ物と健康

「食」を通して人々の生命と健康生活を支えるために、食品の各種成分を理解するとともに、食品の生育・生産から加工・調理を経て人に摂取されるまでの過程について学び、人体に対する栄養面や安全面での影響や評価について学習します。

#### 2) 専門科目

専門科目は「栄養の基本」「栄養の教育」「栄養の実践」「学外実習」および「統合科目」に区分されています。

##### ① 栄養の基本

『管理栄養士論』は、これから学ぶ栄養学の学問体系と学習上の心構え、および管理栄養士に求められる資質等について学習します。

『基礎栄養学』は、栄養とは何か、その意義について学習します。健康の保持・増進、疾病の予防・治療における栄養の役割を学習し、エネルギー、栄養素の代謝とその生理的意義を学習し

ます。

『応用栄養学』は、身体状況や栄養状態に応じた栄養管理の考え方を学習します。妊娠や発育、加齢など人体の構造や機能の変化に伴う栄養状態等の変化について十分に学習することにより、栄養状態の評価・判定（栄養アセスメント）の基本的考え方を学習します。また、健康増進、疾病予防に寄与する栄養素の機能等を学習し、健康への影響に関するリスク管理の基本的考え方や方法について学習します。

## ② 栄養の教育

『栄養教育論』は健康・栄養状態・食行動・食環境等に関する情報の収集・分析、それらを総合的に評価・判定する能力を養います。また、対象に応じた栄養教育プログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントできるよう健康や生活の質（QOL）の向上につながる主体的な実践力形成の支援に必要な健康・栄養教育の理論と方法を学習します。特に行動科学やカウンセリングなどの理論と応用については演習・実習を活用して学習します。さらに身体的、精神的、社会的状況等ライフステージ、ライフスタイルに応じた栄養教育のあり方、方法について学習します。

『栄養に係る教育に関する科目』では、とくに栄養教諭として児童・生徒に対する食の指導の意義や有効な指導のあり方などについて学習します。

## ③ 栄養の実践

栄養管理の基本および方法論で学んだ内容の応用を『臨床栄養学』『公衆栄養学』『給食経営管理論』の各分野で学びます。

『臨床栄養学』は傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいて、適切な栄養管理を行うために、栄養ケアプランの作成、実施、評価に関する総合的なマネジメントの考え方を学習し、具体的な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育、食品と医薬品の相互作用について学習します。特に各種計測による評価・判定方法やベッドサイドの栄養指導などについては実習を活用して学習します。

また、医療・介護制度やチーム医療における役割について学習します。さらに、ライフステージ別、各種疾患別に身体状況（口腔状態を含む）や栄養状態に応じた具体的な栄養管理方法について学習します。

『公衆栄養学』は地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する能力を養います。

また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を学習します。さらに、各種サービスやプログラムの調整、人的資源など社会的資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて学習します。また、保健医療チームの一員である管理栄養士・看護職者の専門性を追求し、チームで連携・協働する意義を学ぶ『栄養・看護演習』を必修科目として配置しています。

『給食経営管理論』は給食運営や関連の資源（食品流通や食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、経済面全般のマネジメントを行う能力を養います。マーケティングの原理や応用を学習するとともに、組織管理などのマネジメントの基本的な考え方や方法を学習します。

『総合演習』は専門分野を横断して、栄養評価や管理が行える総合的な能力を養います。

## ④ 学外実習

『臨地実習』では実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識および技術の統合を図ります。

### ⑤ 統合科目

3年次までに学習した内容を統合し、管理栄養士として専門職の発展に貢献する能力を養うために、以下の科目が配置されています。

『食といのちのゼミ』は教育理念に基づく本学独自の特色あるゼミです。

『英文文献講読』では、専門領域に関する文献を読解し、栄養学関連の動向を学びます。

『卒業研究』では、4年間の学習の集大成として各人のテーマにより研究を行います。

『合同特別演習』は臨地現場をフィールドとし、他職種との連携や協働や専門職者として必要な能力について看護学科の学生と合同で学修します。学科混成チームを編成し、チームで健康障害をもつ対象者の健康問題についてアセスメントから計画、実施、評価までの実践を通して、コミュニケーション力、問題解決力、協調性、主体性などの能力を修得します。

### 3) 教職課程科目

教育職員（以下「教員」）免許状授与の所有資格を得るために必要な科目が配置されています。本学栄養学科において取得できる教員免許状の種類は栄養教諭一種免許状です。

必要科目には、栄養専門教育科目や教養教育科目の一部（Ⅰ-49ページ、Ⅱ-25ページ）の他、教職課程科目も含まれます。

## 4. 教養教育科目（2019年度以前入学生）

### （1）カリキュラム・ポリシー

教養教育科では、建学の精神に基づき、人間として普遍的価値観を養い、グローバル化、情報化、少子高齢化などの社会変化に対応できる能力を身につけ、それぞれの学科で学ぶ高度な知識や技術を統合・発展させ、広く社会に貢献できる人材の育成を目指し、以下の目標を掲げ、これを達成するための教育課程を編成します。

- 1) 実践科学としての看護、栄養に必要な思考力や高度な知識と技術を持った実践家を育成する専門科目の基礎となる知識や技術を修得させる。
- 2) キリスト教に関する知識を授けると共に、教育理念に基づく価値観を形成し、真理を探究する人材を育成する。
- 3) グローバル化、情報化、少子高齢化などの社会変化に対応しながら地域社会に貢献できる基礎的な能力を養う。
- 4) 看護学科および栄養学科の共通概念である健康と生活について、幅広い分野の知識を活用して思考するための基礎的能力を養う。
- 5) 様々な学問分野の知識に基づいて多面的に人間を理解できる能力を養う。

### （2）教育課程の構成

教養教育科目は、「共通基礎科目」「人間と宗教」「人間と文化」「人間と社会」「人間と自然科学」「人間と外国語」「健康とスポーツ」の7領域に区分されています。

#### 1) 共通基礎科目

専門科目と教養教育科目を学修する上で必要な基礎的能力の向上をはかるための科目を設けています。両学科とも「基礎学修演習」1単位、「科学的思考演習」1単位が必修となっています。

#### 2) 人間と宗教

宗教や価値観の問題を通して人間を理解するための科目を設けています。必修の「キリスト教概論」と「人間学」のほかに、「聖書の講読」「宗教学」「キリスト教特論」の中から1科目以上選択しなければなりません。

#### 3) 人間と文化

文化的資産を通して人間を理解するための科目を設けています。

#### 4) 人間と社会

家庭から地球規模まで、人間を取り巻く社会の構造、仕組みを学ぶとともに、人間とそれらとの関わりを理解するための科目を設けています。

#### 5) 人間と自然科学

専門科目の科学的基礎となる科目を設けています。両学科とも「化学」2単位、「統計処理演習Ⅱ」1単位が必修となっています。

#### 6) 人間と外国語

国際的共通語として認識されている英語を中心に、実用性の高い外国語を学習するための科目が設けられています。両学科とも「英語ⅠA」「英語ⅠB」「オーラルイングリッシュⅠA」「オーラルイングリッシュⅠB」が必修となっています。

## 7) 健康とスポーツ

健康に対するスポーツの有効性について理解を深めるとともに、生涯を通じて健康維持・増進を図るため、スポーツを手段として自己の健康管理を考える科目が設けられています。